

題名 「丹 8号」

作 八木 祥介

概要 県外で働く主人公の奈津は久しぶりに広島県呉市の実家に帰省した。認知症のため施設（グループホーム）に入所している祖父の家を片付けている際、古い通信機らしき装置と少年時の祖父と少女が映った写真を見つける。奈津から装置と写真をわたされた祖父は断片的に記憶がよみがえり、装置を作動させる。太平洋戦争下の日本海軍は極秘裏に念動力で動く巨大ロボットの開発を行っており少年時の祖父は操縦者としての訓練を受けていたのであった。祖父が装置を作動させたことにより、呉市内某所に保管されていた巨大ロボット丹8号（ニ 8号）が地上に姿を現す。丹8号はグループホームに祖父を連れ出し祖父とともに呉湾に沈んでいったのであった。

文字数 2970 字

広島駅 新幹線ホーム

奈津が新幹線から降りる。

呉線 社内

奈津 LINE でメッセージ送る。

「呉駅 13：00 着に乗った。」

呉駅

奈津 迎えに来た父の車に乗り込む。母も乗っている。

車 山の方向へ走り出す。

タイトル 「丹 8号」

墓地

奈津 両親と墓を掃除する。盆灯籠が何本も刺さっている。

墓地からは呉港が見える。海上自衛隊の艦船が何隻も停泊している。

グループホーム 広間

祖父（90 歳）に奈津らが話しかける。

母親「おとうさん、奈津が帰ってきたよ。」

祖父「……………」

奈津「おじいちゃん、調子はどう？」

祖父 反応なく、お茶をすすする。右の手の甲に古い傷跡が見える。

奈津 母親の顔を見る。

母親「ま、こんな感じよ。」

実家 夜

テレビで1945年の呉市空襲を取り上げた特集を放送している。

奈津 父親にビールつぐ、父親もつぎかえす。

奈津「おじいちゃんの家こわしちゃうの？誰かに貸せば？」

父親「あがな坂の上で、車も駐めれんとこ借りる人はおりゃあせんわ。お前、帰ってきたら住か？」

奈津「うーん……」

父親「じゃろ？」

グループホーム

祖父がグループホームの広間に座っている。テレビには呉市空襲の画像が流れている。

祖父テレビの画面をただ見ている。

祖父の家 (翌日 午前)

奈津と父親が片づけをしている。筆筒から古い写真が何枚も出てくる。

奈津「これ、おじいちゃんかな？」

10歳ころの祖父とすこし年上の少女の写真が見つかる。

奈津「おじいちゃんのお姉さん？」

父親「さあ？母さんは男兄弟だけとゆうてた気がするがな。」

奈津 押し入れを整理している。

押し入れの中のものを全部出した後、床に四角い切れ目があるのを見つける。

切れ目にドライバーを差し込み、引き上げると中から何重も油紙でつまれた金属製の箱が見つかる。

奈津「拳銃だったりして。」

箱の中にはヘッドホンと通信機らしき装置が入っている。
通信機には「丹 8」との標記がある。

グループホーム

主人公 祖父に写真と装置を見せる。

奈津 「おじいちゃんの隣の人は誰？」

祖父 写真を見つめたまま無言。

祖父の脳内（フラッシュバック）

少女が振り返る。

奈津「押し入れの下からこんなのも出てきた。これおじいちゃんの？」

祖父「……………」

奈津「電池入れたら動くかな？」

電池を入れると小さいライトがつく。

奈津「これ何に使うの？」

祖父「……………」

グループホーム 祖父の個室

暗い部屋の中 祖父がテレビを見つめている。大戦中の呉市内の映像が流れている。

祖父の手には写真

ベッド横に置かれている装置の針が数秒間大きくふれだし、また止まる。

祖父の脳内（フラッシュバック）

装置をつけた少年のころの祖父

研究所の一室で少年少女が机の上の機械を念動力で起動させる訓練をしている。

写真の少女もその中にいる。

指導係の軍人が訓練の様子を注視している。

祖父の部屋

テレビを見つめる祖父。

祖父の脳内（フラッシュバック）

部屋の中の少年少女の数が日ごとに減っていく。

部屋の中には祖父（少年時）と少女だけになる。

祖父（少年時）と少女は同時に装置をつけ、机の上の装置を起動させる。先に少女の機械が起動し一瞬おくれて祖父（少年時）の機械が起動する。

祖父（少年時）と少女お互い顔を見合わせてほほ笑む。

祖父の部屋

テレビを見つめる祖父。

テレビの画面には空襲の映像が流れている。

祖父の脳内（フラッシュバック）

空襲を受ける研究所

祖父（少年時）の目の前で少女が吹き飛ばされる。

祖父の部屋

テレビを見つめる祖父。

装置の針が振れ始める。

祖父の脳内（フラッシュバック）

装置を持ち出し、格納庫へ走る祖父（少年時）

指導係の軍人が捕まえ止めようとするが祖父（少年時）は振り切って走り出す。

祖父（少年時）格納庫の前で突如倒れる少年。装置が手から転がり落ちる。

指導係の持つ拳銃から煙が出ている。

祖父（少年時）の手のひらから血が流れる。

格納庫には「丹 8号」を書かれている。

祖父の部屋

テレビを見つめる祖父。

祖父装置を手を取っている。針が大きく早く動き出す。

実家

遠くから爆発音とともに振動。

奈津「何？今の」

テレビ画面 緊急速報のテロップ

アナウンサー「広島県呉市のヤマトミュージアムで火災です。中継でお伝えしています。」

テレビ画面

ミュージアムの池の下から巨大な金属製の腕が突き出し、ロボットが姿をあらわす。

実家

奈津と両親窓をあけて外を見る。呉湾方面が赤く染まっている。

テレビ画面

アナウンサー「これはドラマではありません。実際に起きている映像をお送りしています。広島県呉市の大和ミュージアムから巨大な人型のロボットのような物体が出現しました。正体はわかっておりません。危害をもたらす恐れがあります。付近の方は一刻も早く避難をしてください。

ミュージアム付近

ロボット ゆっくりと歩き出す。車は踏みつぶされ、街路樹 信号はなぎ倒される。

テレビ画面

アナウンサー 「ロボットは〇〇方面へ移動しています。付近の方は一刻も早く避難をしてください。すでに付近道路は渋滞しています。車での避難はさけてください。繰り返します。……」

奈津「おじいちゃん……」

グループホーム

職員が住人を避難させようとしている。

祖父の部屋

職員がドアをあける。

職員「広瀬さん！」

外部より巨大な手が窓を壊し部屋の中央に立つ祖父をつかみ去っていく。

市街

警察による規制線の先でロボットがゆっくりと港の方にむかっていく。

奈津 自転車でグループホームへ向かう途中でロボットに遭遇。

ロボットの方に祖父の姿を見つける。

奈津「おじいちゃん?!」

自衛隊のヘリコプターがロボットにライトを照らす。

パイロット「ロボットの肩に老人の姿が見えます！」

奈津 自転車でロボットを追いかける。

奈津

「おじいちゃん！」

祖父の脳内（フラッシュバック）

格納庫の中

祖父（少年時）と少女がロボットの上に腰かけている。

少女「戦争がおわったら何したい？」

祖父（少年時）「野球。ナナちゃんは？」

少女「これにのって遠くまで行きたい。」

祖父（少年時）「これで？みんなびっくりしちゃうよ。」

少女「ずっと、この中だもん。きつとこの子も外に出たいはずよ。」

市街

進むロボット

呉港

祖父を肩に乗せたままロボットが海に入っていく。

奈津「おじいちゃん！」

祖父 ふりかえり主人公に軽く手をあげ笑顔を見せる。

奈津は一瞬 少年と少女の姿を見るが、次の瞬間 祖父ひとりになっている。

呉港に沈んでいくロボットと祖父。

追いついた両親が奈津のそばに駆け寄る。必死で呼び止めようとするがロボットは止まらず海中に姿を消す。

ヤマトミュージアム 地下格納庫

職員が奈津と両親を案内している。

職員「我々は休山トンネル工事中に巨大な施設とあれを見つけました。このミュージアムはあれを極秘裏に保管するカモフラージュのために建設されたのです。もはやその意味はなくなってしまいましたがね。・・・」

かつてロボットが保管されていた架台に「仁 8号」の標識がつけられている。

天井と壁は補修のためのブルーシートがかけられている。

職員「操縦がまさかテレパシーによるものだとは全くの想像外でした。いくら調べてもわからないはずです。」

奈津「(写真を見せて) この女の子もここにいたんでしょうか？」

職員「さあ？ 終戦時にあれに関する資料はすべて焼却されてしまったのでなんとも・・・」

お爺さんが関係者だったこともこちらは把握していませんでした。」

一行 格納庫を出ていく。

格納庫の照明が消える。

終わり